

ダイバーシティ事業 国際共同若手研究者養成プログラム報告書(2022年度分)

報告日：2023年10月17日

国際共同研究に関して、報告日時点での研究成果、研究成果の発表予定について具体的に記入してください。

適宜、行を追加してください。

派遣者所属名	経済経営研究所
派遣者氏名	明坂弥香
研究タイトル	Causes and consequences of the sex segregation in college major
研究目的	<p>日本でのSTEM系学部における女性割合の低さについて、独自にデータを構築し、その要因を定量的に明らかにする。</p> <p>本研究では、受験生を対象とした受験情報誌をもとに、大学・学部別のデータベースを構築し、男女間の専攻学部の差の大きさやその要因に迫る。日本で大学の分析をする際、標準的なデータとして文部科学省が実施する学校基本調査がある。当該調査は学校法人を対象とした全数調査であり、所在地や在籍者の年齢・性別構成など、大学の基本情報を捉えるのに適している。一方、高校生や受験生が何故その大学・学部を選ぶのかを考える際に必要な情報——例えば、大学および学部の偏差値、入試科目、受験料、授業料、就職状況、学部を卒業することで取得可能な資格など——は含まれていない。そこで本研究では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 大学の真の実力 (旺文社) ● 全国大学内容案内号 (旺文社) <p>等、受験生を対象とした情報誌をもとに、大学・学部別のデータベースを構築する。</p>
研究報告 (内容および成果) 2000字以内	<p>2023年4月時点で、1年分のデータについて大学および学部の偏差値、入試科目、受験料、授業料のデータ構築を行った。報告書では、現時点で構築できたデータをもとに、日本のSTEM系学部と女性割合について考察する。</p> <p>図：学部別、偏差値と学部女性比率の関係</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>国公立大学</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>私立大学</p> </div> </div>

	<p>上図は大学のタイプ（国公立大学、私立大学）ごとに偏差値と学部女性比率の関係を示したものである。理工系（黄色・実線）に加え、比較対象として人文科学系（青色・破線）を示した。各点は一つの学部であり、点の大きさは学部規模の違いを示す。より偏差値と女性比率の関係が分かりやすいよう、最小二乗法による予測線とその95%信頼区間を示した。理工系の女性比率は、人文科学系と比べて著しく低いのはもちろんのこと、入学難易度の低い大学でも女性比率が高くなるわけではない。国公立大学の人文科学系では、偏差値が高い大学・学部ほど女性比率が下がる傾向にあり、女性が難易度の高い大学を避けている様子が伺える。ここでは示していないが、社会科学系学部でも同様の傾向があった。しかし、理工系学部でこのような傾向は見られず、むしろ私立大学において、偏差値の高い大学の方が女性比率は高くなる。以上から、多くの女子学生にとって理工系学部への進学は、入学難易度のために回避した、断念したというよりも最初から選択肢に入っていないことが示唆された。</p>
<p>研究成果の 発表予定</p>	<p>現時点で発表の目途は立っていないが、他に研究費を獲得して研究を再開し、データの年度を増やした上で、国際学会での報告および論文の出版を目指したいです。</p>